

歯の画像解析 データ化

災害時、身元確認迅速に

きよつから徳大病院

徳島大学病院口腔管理センターの高野栄之副センター長(48)らのグループが19日から、歯の状態を自動分析する画像解析技術を用い、患者の歯の状態を電子データにする。県内の歯科医院とも連携し、南海トラフ巨大地震などの大規模災害時に犠牲者の身元を迅速に確認できるようにする。災害に備えて電子データ化するの全国で初めて。



高野栄之氏

画像解析技術は徳島大理工学部情報光システムコースの寺田賢治教授(52)が開発した。デジタルカメラやスマートフォンで撮影した口の中の写真を画像解析ソフトで読み込み▽虫歯の有無とその程度▽詰め物などの治療痕▽抜け落ちた歯などを瞬時に分析してデータ化する。

写真から歯だけを抜き出した画像を作成したり、歯の画像を一列



寺田教授が開発したソフトで画像解析した歯 (高野副センター長提供)

に並べ替えたりするのも可能。患者が診察を受けるたびに撮影すれば、データを随時更新できる。

歯で身元を確認する場合は、治療した歯以外も照合するため、カルテ(診療録)とは別に健康な歯の記録も必要になる。しかし、データを入力するのに相応な時間と手間がかかり、手作業では難しかった。

東日本大震災では、犠牲になった1万5897人のうち約10%は歯科医師が身元を照合。歯科医院からレントゲン写真を取り寄せる作業などに時間を要したという。

当面は徳大病院の患者が対象で、県内の歯科医院にも協力を呼び掛けて取り組みを広げる。さらに、医療機関などが患者の診療情報を共有する「阿波あいネット」にも接続し、災害に備える。

高野副センター長は「南海トラフ巨大地震では県内の歯科医師も被災し、人手が足りなくなる恐れがある。迅速に身元を確認するには事前のデータベース化が重要」と話している。

(岸和弘)